

平成三十年 新年を迎えて!

新しき年の初めの初春の今日降る雪のいや重け吉事

あたらしき としのはじめの はつはるの きょうふるゆきの いやしけよごと

大伴家持(万葉集より)

当時、因幡守であった大伴家持が正月一日に詠んだ歌です。現代語では、「新しい年の始めに降る今日の雪のように、良いこともたくさん積もりますように」というような意味になります。迎えた新年を寿ぎ、一年の無事と繁栄を祈った和歌です。

私たちも、新年にあたって一年の平安を祈るととも目標を立て決意を新たにします。前向きな言葉を使うことによって、来たる一年が良い年になるようにという願いは、今も受け継がれていると思います。「言霊 (ことだま)」とも言われますが、穏やかな言葉を使えば、心も整って健やかに過ごすことができます。学校生活も同様です。前向きで建設的な集団を形成するためには言葉が鍵になります。



さて初春を迎えると思い出す言葉があります。それは「冬来たりなば春遠からじ」(英国詩人シェリー)です。厳しく苦しい冬をただ嘆くのではなく、厳しい冬が来たからこそ、優しい日の光があふれる明るい春が来るのだと考えられます。

私たちの生活にも、厳しい時はやってきます。そして、生徒たちの生活においても、悩み続けたり希望を失ったりする時期はあります。そんな時、言葉の力を信じて、前を向く強さと心のしなやかさを持つことの大切さを伝えていけたらと思います。

新年にあたり、校長として生徒の健やかな成長を約束する教育活動の更なる充実を目指したいと思います。

たつの市立新宮中学校

校長 芝崎 幸成

